

平成28年度

# 森林づくり活動報告会

～森林と人とのきずな復活に向けた取り組み～

## 発表概要

日時 平成29年1月19日（木） 10時30分～14時30分

会場 福島県農業総合センター 多目的ホール

# 平成28年度森林づくり活動報告会 発表プログラム

平成29年1月19日(木)  
福島県農業総合センター 多目的ホール

	時間	発表タイトル	発表者
1	10:35 ~10:55	広がり始めた福島県内の森林ボランティア団体の活動	公益財団法人 ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団 常務理事 弦間 一郎
2	10:55 ~11:15	第69回全国植樹祭開催に向けた取組状況	福島県農林水産部 全国植樹祭推進室 主幹 須田 俊雄
3	11:15 ~11:35	地域住民による里山林整備活動の支援 (里山林整備事業の活動事例)	福島県農林水産部森林保全課 主任主査 高原 尚人 福島県南会津農林事務所 林業課長 鈴木 比良
4	11:35 ~11:55	金沢地域里山再生プロジェクト	矢祭町事業課 事業課長 高橋 竜一 金沢地域里山づくり実行委員会 事務局 片野 恵仁
	12:00 ~13:00	(昼休憩)	
5	13:00 ~13:20	エコ七夕	福島県生活環境部環境共生課 主査 笠原 香峰子
6	13:20 ~13:40	県立学校における森林環境学習の取り組みについて	福島県教育庁高校教育課 指導主事 鈴木 和明
7	13:40 ~14:00	大学と地域がつながった森林づくりに関する自己学習について	アカデミア・コンソーシアムふくしま 事務局 研究員 岩本 正寛
8	14:00 ~14:20	森林文化をテーマとした「森のはこ舟アートプロジェクト」について	福島県文化スポーツ局 文化振興課 主幹 大波 真吾 主事 栗原 聡美

## 広がり始めた福島県内の森林ボランティア団体の活動

公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

常務理事 弦間一郎

### (公財) ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団について

- ・福島県内で活動する森林ボランティア団体を福島県森林ボランティアサポートセンター（福島県より受託）、うつくしま21森林づくりネットワーク（事務局）、ふくしま森林・山村多面的機能発揮対策協議会（事務局・林野庁事業）の運営や福島県もりの案内人養成講座（福島県より受託）、森林ボランティアリーダー育成講座（福島県より受託）を通じて支援させていただいている。
- ・活動の拠点は、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら（安達郡大玉村、指定管理者として管理・運営）

### 森林ボランティアとは？

- ・森林環境を守ることを目的としたボランティア活動のこと
- ・森林環境を守ることを通し、人間の暮らしを豊かにすることを目的としたボランティア活動のこと

### 福島県内の活動状況

- ・東日本大震災・原発事故の前と後の変化（森林と人との関わりの変化）
- ・森林体験提供型では：NPO 法人福島県もりの案内人の会
- ・森林整備実施型では：森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業関連団体
- ・ネットワーク構築型では：うつくしま21森づくりネットワーク
- ・組織や団体のCSR型では：株式会社 東邦銀行

### これから

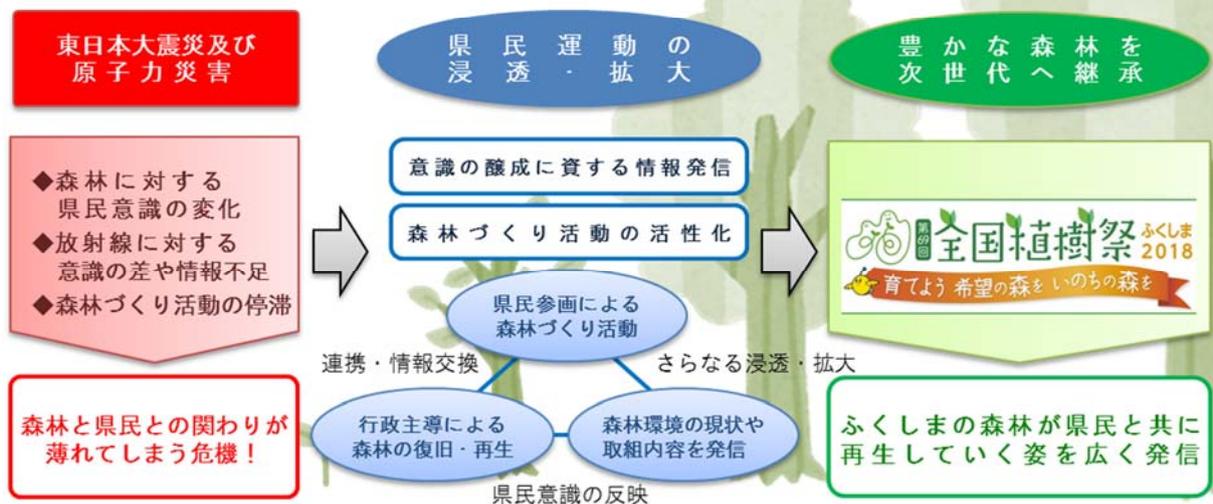
- ・福島県の森林づくりに向けて
- ・第69回全国植樹祭開催に向けて

## 第69回全国植樹祭開催に向けた取組状況

発表者：福島県全国植樹祭推進室  
主幹 須田 俊雄

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、昭和25年から開催されている国土緑化運動の中心的行事です。

平成30年春季に福島県で開催する全国植樹祭は、東日本大震災と原子力災害で甚大な被害を受けた本県が、緑豊かなふるさとの再生を進めていく上で、シンボルとなる大会です。



本日は、全国植樹祭の概要と、大会開催を通じて県民一人一人が参画する森林づくり活動を推進する取組について報告します。

### ◎第69回全国植樹祭について

〔開催時期〕平成30年春季

〔式典会場〕南相馬市原町区<sup>しどけ</sup>雫地内（海岸防災林造成地）

〔大会テーマ〕「育てよう 希望の森を いのちの森を」



苗木のスクールステイ



森林とのきずなづくり植樹リレー

## 森林づくり活動報告会発表概要

### 1 発表表題

地域住民による里山林整備活動の支援(里山林整備事業の活動事例)

### 2 発表者の所属・職氏名

Phase1 福島県森林保全課 主任主査 高原尚人

Phase2 福島県南会津農林事務所 林業課長 鈴木比良

### 3 発表概要

#### Phase1

森林づくりへの意識の醸成や森林と人との絆の回復、さらには、野性動物との共生を図ることを目的に、地域住民が行う里山林の整備活動を支援する「里山林整備事業」を平成28年度からスタートした。

当事業の概要及び今年度の県内の実施状況について報告する。

#### Phase2

南会津管内においては、里山林の景観整備を行うとともに、野性動物の農林業被害防止のための緩衝帯の整備や立木へのテープ巻き、さらには、カシノナガキクイムシ等の森林病虫害の予防を視野に入れた景観整備への支援を行った。

具体的には、地域住民や森林づくり団体へのチェーンソーや刈払機の購入支援、大径木の伐採等での森林組合等への施業委託経費の支援を行ったので、それらの実施状況を報告する。



森林づくり団体や施業者との現地打合せ



剥皮被害防止のためのテープ巻き

平成 27 年度、平成 28 年度福島県森林環境交付金事業

## 「金沢地域里山再生プロジェクト」

発表：矢祭町役場 事業課長 高橋竜一

金沢地域里山づくり実行委員会 事務局 片野恵仁

### 【事業目的及び内容】

里山再生プロジェクトは、矢祭町大字金沢地区をフィールドとしてプロジェクト賛同者と地域住民が協力して里山の再生を図り、「地球にやさしいライフスタイル」のシンボルとなる森林を造成し、次の世代に引き継ぐものである。

当該地区の森林は手入れ不足などにより荒廃が進んでいる状態であった。このため、間伐等の施業を行い森林環境の再生を図る。

また、伐採木及び県産材を利用して遊歩道や四阿の整備を行うとともに、探鳥会、里山の収穫祭や炭焼き体験などの事業、及び小学校等の森林環境学習の場としても使用するなど、地域住民をはじめ広く県民が森林とふれ合い、交流できる里山として再生を図る。

事業実施主体は町民等で組織する実行委員会とし、プロジェクト賛同者を町内外の一般住民から広く募るとともに、林業関係者や福島県が認定している「もりの案内人」及び「グリーンフォレスター」の方々にも協力を仰ぎ、アドバイザーや事業実施者として参画していただくこととしている。また、地域内には大工・板金職人等各種職業従事者（経験者）がおり、知恵を出し合い「自分たちの地域は自分たちの手で！」を合言葉に検討し、自分たちでできることは自分たちの手で作業することで経費節減を図り、最小の経費で最大の効果を上げたい。

金沢地区周辺の里山を、広く県民が森林とふれ合い、交流できる場とし、多くの有識者の協力の下で先進的なモデルケースとして地域住民らとともに整備するものである。

### 【活動内容】

#### ○平成 27 年度

- ・事業計画作成及び現地測量等

#### ○平成 28 年度

##### 森林整備

針葉樹皆伐：約 3.0ha、広葉樹間伐：約 3.0ha、作業道作設：1,000m

##### 遊歩道整備

1号遊歩道 延長 L=800m、2号遊歩道 延長 L=300m、3号遊歩道 延長 L=200m  
総延長 L=1,300m（新設 300m、作業道を遊歩道として改築 1,000m）

##### 四阿

3カ所整備（伐採木及び県産材利用）

##### 植栽（山ザクラ、モミジ他）

県、町、プロジェクト賛同者等、約 80 人程度で植樹祭を開催

○平成 29 年度以降

森林整備

植栽地の下刈り及び広葉樹林の除伐、抜き伐り等  
除草剤（しの藪、くず葉等）及び肥料散布（花木）を年 2～3 回実施  
各イベント開催前にフィールド整備を実施

遊歩道

月 3～5 日（1 日 3～5 人程度で）遊歩道周辺を維持管理  
集中豪雨等による遊歩道洗掘補修や倒木処理等

植栽

広葉樹の植栽（町関係の記念植樹等）



↑安全祈願祭



↓地拵え風景

↓四阿。基礎から自分たちで



施行前の風景→



ふくしま省エネ促進総合モデル事業

## エコ七夕

福島県環境共生課 主査 笠原香峰子

### 発表の概要：

#### 1 趣旨

県では、本県の未来を担う子どもたちへの環境教育に力を入れております。七夕に願い事をすると叶うと言われていることから、小学校入学前の子どもたちの森林や地球環境を想うやさしい心を育成するため、「エコ七夕」を実施しました。

#### 2 内容

エコ七夕に参加した県内の76園では、地球温暖化をテーマとした絵本の読み聞かせを行い、環境にやさしい願い事を笹に飾り、叶うようお願いしました。

#### 3 願い事

「れいぞうこは、すぐにしめます」「ちきゅうをたすけるためにせんぷうきをやさしくつくる」などのエコでやさしい願い事が笹に飾り付けられました。

短冊を飾るだけでなく、園児や園児の家族、園の先生も短冊に書いた願いが実現できるよう取り組んでいます。

#### 4 森の案内人派遣

7園に森の案内人を派遣し、竹や木のパーツを組み合わせてキーホルダーを作成するなど、森林との触れ合いを楽しみました。

#### 5 まとめ

地球温暖化防止は喫緊かつ継続的な課題であり、森林は温暖化防止に重要な役割を果たしています。幼少期から森林ひいては地球環境を想うやさしい心を育み、実践に結びつけていくことが大切です。



## 県立学校における森林環境学習の取り組みについて

発表者 福島県教育庁高校教育課  
指導主事 鈴木和明

豊かな森林環境を有する本県にとって、県立学校生徒に対して、森林を守り育てる意識の醸成を図るとともに、森林環境の保全に興味を持ち、主体的に行動できる態度や資質、能力を育成することが大切である。また、自然環境を保護するという観点からも、生徒たちが自然環境について理解を深める必要性は高まっている。そこで、高校教育課では、「県立学校における森林環境学習推進事業」を実施し、生徒たちが森林の役割や森林文化に対する興味関心を高めるための体験的な学習や、専門高校における森林保全に関わる学習活動等に対して支援を行っている。発表では、具体的な実践例を挙げながら、これまでの本事業の取組について紹介する。



森林伐採について話を聞く生徒たち（福島工業高校）



間伐材での製作活動（会津学鳳中学校）



雄国沼を散策する生徒たち（会津学鳳中学校）

# 大学と地域がつながった森林づくりに関する自己学習について

## — 発表概要 —

アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局

(福島大学 地域連携課)

研究員 岩本 正寛

福島県内の19の高等教育機関と、7つの行政、経済団体等が加盟するアカデミア・コンソーシアムふくしま（以下、ACふくしま）は、平成22年に発足した、本県唯一のすべての大学が加盟する大学コンソーシアムである。平成24年度に採択された文部科学省の事業で初めて本県の森林、とりわけ林業と地域文化、産業、福祉を学習の課題として位置づけて取組み、現在に至るまで大学のキャンパスでは学ぶことのできない学習を実践してきた。

平成28年度は初めて福島県「若者の森林自己学習支援事業」に、福島大学や会津大学の学生による3団体（表1）の取組が採択され、南会津町、いわき市、田村市の森林をフィールドとした自己学習プログラムを展開した。いずれも地域の林業と経済、政策、地域住民の生活、文化という視点を有機的に融合させた、実地で見聞きし課題を探求する学習を、3団体それぞれが行った。

今年度はこの事業の初年度であるため手探りの日々が今もなお続いているが、彼らの後方支援を担ったACふくしまは、単に事務手続きの指導を行うだけではなく、学修成果を可視化して「学びっぱなし」にならない教育を実現させるなど、事業の質の向上を推進した。

表1：学生団体の詳細について

団体名	大学名	プロジェクトの目的・学習テーマ（※実施計画書より抜粋）
とげっちょ組	福島大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>森と地域の関わりを学生目線で考え、将来、学生が森と地域をつなげる人材となるよう育成する。</li> <li>ワークショップにおいて、地域における森林の活用の重要性を認識する。</li> </ul>
「ふくしま」の魅力を発見、世界に発信し隊	会津大学	<p>平成24年度より、福島県南会津郡南会津町山口に位置する中小屋区集落住民と会津大学の日本人学生・留学生とのグローバル協働チームの交流を通して、大学生の持つ視点や行動力、IT専門技術などの「外からの力」を活用し、中長期的な地域づくり活動を実施している。集落や大学を行き来することにより、信頼関係が築かれ、会津地域連携及び活性化に効果が出ている。</p> <p>この事業を通して、人口減少と高齢化の進行が、耕作放棄地の増加・森林の荒廃・空き家の増加を生み出している現状を理解し、美しく豊かな自然や景観の「知られざる魅力」をデザイン思考の観点から再認識し、世界に発信していく。</p>
もりんちゅ森人	福島大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県内の森林事業の現状を知る</li> <li>森林に対する関心を高める</li> <li>これからの林業について自ら考える力をつける</li> </ul>

## 森林文化をテーマとした「森のはこ舟アートプロジェクト」について

福島県文化振興課 主幹 大波真吾  
主事 栗原聡美

### ○発表概要

県では平成26年度から「森のはこ舟アートプロジェクト」を、会津地域を中心に実施してきた。現在まで喜多方、西会津、三島、猪苗代、北塩原、南相馬の6つのエリアで活動がなされている。様々なアーティストがそのエリアに出向き、地域の人たちと交流を図りながらワークショップや展覧会、フォーラムなどを開催してきた。本県には豊かな森があり、そこにある地域資源を活用したアートプロジェクトという新しい切り口で、森林文化や郷土愛の再発見にもつながっている。これまでの3年間の事業の中から、三島エリアの伝統工芸や水力発電を活用したライトアート「森 光 水」、西会津エリアの森で採取した草木を使って実施された「森を描く」、猪苗代エリアのしぶき氷を自分たちでつくる試みの「森の氷本」などを挙げながら、アートプロジェクトが地域や住民にもたらしたものについて紹介する。

### (発表のポイント)

- ・プロジェクトの趣旨、概要
- ・プログラム事例紹介（三島エリア「森光水」、西会津エリア「森を描く」、猪苗代エリア「森の氷本」）
- ・地域や住民にもたらしたもの
  - \* 森に親しむ機会
  - \* 森というものの存在を改めて感じる機会
  - \* 地域の輪の広がり（地域の恒例行事として継続されている「草木をまとめて山のかみさま」の例など）



「森 光 水」



「草木をまとめて山のかみさま」